

10月20日は「リサイクルの日」

～地球環境にいいこと、身近なことから～

市は、令和4年10月20日(リサイクルの日)に「ごみ減量宣言」を行い、ごみの減量化やリサイクルの推進に取り組んでいます。しかしながら、令和5年度の1人1日当たりのごみ排出量は1,034.7g/人・日であり、全国平均の879.8g/人・日(令和4年度)、県平均の941.4g/人・日(令和4年度)を上回っており、リサイクル率13.1%(令和5年度)は、全国平均の19.6%(令和4年度)、県平均の16.2%(令和4年度)を下回る結果となっています。

『捨てればごみ、活かせば資源』という言葉で表されているとおり、不用になったものは捨ててしまうとごみになり、焼却や埋め立てされ、環境負担は大きくなりますが、素材ごとに分別し、リサイクルやリユースすることで資源として再び活かすことができます。

ごみを減らし、リサイクル率を向上させていくため、市民の皆さまの高い意識と日々の行動が重要です。市では、環境学習出前講座やワークショップなどを開催し、皆さまに身近なところから取り組んでいただける『地球環境にいいこと』を提案しています。

まずは、資源物をごみにしないよう分別を心がけ、リサイクルに取り組みましょう!

環境学習出前講座 ～プラスチックごみの大変身～ を開催しました!

8月5日、徳島県環境アドバイザー派遣事業を活用し、横須保育所の4歳児・5歳児を対象に環境学習出前講座を行いました。横須保育所では、各家庭から集めたペットボトルキャップや使用済みハブラシをお散歩の時間に市役所の回収コーナーに届ける活動や、キエーロによる生ごみ処理など、日頃から環境学習に取り組んでいます。

今回、講師を務めた環境アドバイザーの松崎久美子さん(有限会社ハイプラ 代表取締役)からは、地球温暖化やプラスチックごみの問題についてのお話があり、市役所に届けた



うちわに台紙(シール)をペタリ

ペットボトルキャップが再利用され、うちわの骨組みやプランターに大変身する過程を学びました。「一人一人がリサイクルを続ければ大きな力になります。みんなで一緒にごみを減らして、プラスチックを大事に使いましょう」と呼びかけると、子どもたちは大きな声で「はい!」と答えていました。

子どもたちは、うちわの台紙に思いの絵を描き、再生された骨組みに貼り付けてオリジナルうちわを完成させ、「ペットボトルのキャップがうちわになってすごいと思った」、「また市役所にキャップを持っていきたい」と目を輝かせていました。

私たちが住む地球は一つしかありません。次代を担う子どもたちが環境問題に関心を持ち、主体的に取り組んでくれることを願っています。



オリジナルうちわで夏を涼しく!



講座の様子